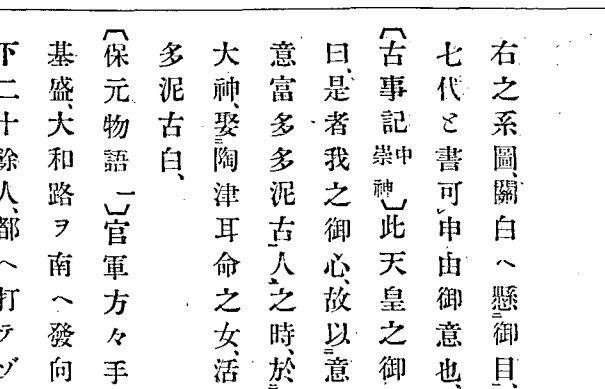
揚言系譜



一 俊宣 ― 二 俊泰 ― 三 俊永 ― 四大膳大夫 俊直 ― 五坊官 慶忠 ― 六兼坊 快俊 ― 俊記 ― 兼坊 忠快
俊定 ― 俊孝
俊祇 七山城守 ― 俊眞 主税助 ― 匡英
俊光 石見 ― 俊尚

右之系圖、關白ヘ懸御目、何代とは如何樣にかぞへ可申哉と申上候へば、慶忠快俊入て、山城守迄七代と書可申由御意也、仍而右一二三付の通、山城迄七代と書付出候也、

〔古事記 中崇神〕此天皇之御世、疫病多起、人民死爲盡、爾天皇愁歎、而坐神牀之夜、大物主大神、顯於御夢曰、是者我之御心、故以意富多多泥古、而令祭我御前者、神氣不起、國亦安平、是以驛使班于四方、求謂意富多多泥古人之時、於河內之美努村見得其人貢進、爾天皇問賜之汝者誰子也、答曰、僕者大物主大神、娶陶津耳命之女、活玉依毘賣生子、名櫛御方命之子、飯肩巢見命之子、建甕槌命之子、僕意富多多泥古白、

〔保元物語 一〕官軍方々手分事

基盛、大和路ヲ南ヘ發向スルニ、法性寺ノ一ノ橋ノ邊ニテ、馬上十騎計、直甲ニテ物具シタル兵、上下二十餘人、都ヘ打テゾ上リケル、基盛、是ハ何レノ國ヨリ何方ヘ參スル人ゾト問ケレバ、此程京中物忩ノ由承ル間、其子細ヲ承ラントテ、近國ニ候者ノ上洛仕ルニテ候ト答、基盛、打向テ申ケルハ、一院〇白河崩御ノ後、武士共入洛ノ由、叡聞ニ及ブ間、關々ヲカタメニ罷向フ也、內裏ヘ參人ナラバ、宣旨ノ御使ニ打連テ參ジ給ヘ、不然バヱコソ通シ申マジケレ、角申ハ桓武天皇十代ノ御末、刑部卿忠盛ガ孫、安藝守清盛ガ次男、安藝判官基盛、生年十七歲トゾ名乘タル、大將ト思敷者ノ、〇中略身不肖ニ候ヘ共、如形、系圖ナキニシモ候ハズ、清和天皇九代ノ御末、六孫王七代末孫、攝津守賴光ガ舍弟、大和守賴信ガ四代後胤、中務丞賴治ガ孫、下野權守親弘ガ子ニ、宇野七郎源親治トテ、大和國奧郡ニ久住シテ、未武勇ノ名ヲ落サズ、左大臣殿〇藤原賴長ノ召ニ依テ、新院〇崇德ノ御方ニ參也、源